

未来から逆算する

1. 成功哲学に学ぶ

右掲は、1937年、ナポレオン・ヒルによって書かれた名著「思考は現実化する」で、成功哲学の代表的な書です。私は、大まかに「成功の姿をイメージして、到達する手段を決め順に進める」事と理解しています。つまり、「夢」を描いて、逆算して「今、何をするか」を明確化する事が第一歩という事です。「成功の姿」≡「夢」と解釈しています。

しかし、残念な事に多くの方は「夢」を明確に語れないのではないかと思います。「夢」を語れないので「成功の姿」も描けないとなるのです。「人」の「夢」は「儚」と漢字で書きますが、「なりたい姿」がなければ「夢」を描けないので「儚い」よりも「空しい」です。では、「夢」をどう描くかが課題になります。このヒントに有名な4行詩

心が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、天命が変わる

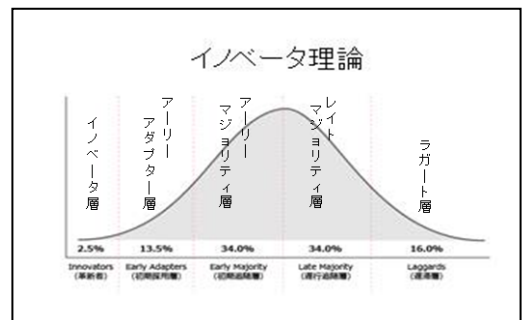
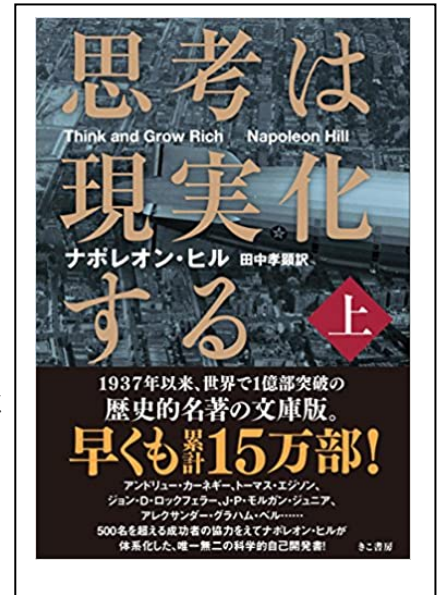
にあります。構図的にも分かるように「心」⇒「行動」⇒「人格」⇒「天命」と連綿と繋がっていますが、つまり、心に思った事を具体的に第一歩踏み出す事がスタート台なのです。踏み出さない限り何も始まらないのです。「直観力」と言いますが、「これはイケる！」と信じて第一歩を踏み出すか否かです。「直感」を吟味して考えるようでは「動けない」のです。よく山登りに喩えますが、上り道は幾つもあり、どの道も踏み出したら歩み続けて道中に困難が待っていても挫けずに乗り越えて山頂に向かって行けば、最後には登頂できるのと同じなのです。

「凡事徹底」と言いますが、何事も徹底して続ければ習慣となり「凡事」として身に付き苦ではなくなるのです。すなわち、この状態になれば「一皮むけた」状態になり成果が出始めるので、「人格」、つまり他人の評価が変わるのです。凡事として徹底すれば他者が評価して「凡事一流」となるという構図です。そして、運命が変わって行くという構図になります。

2. 成功する想いが大切

一般的に「演繹法」と「帰納法」がありますが、「成功哲学」は後者の帰納法的アプローチを行いません。「今」を連続させる「演繹法」では、現実の結果に左右されるので「次」が困難になる可能性が高いのですが、「未来」から逆算する帰納法では同じ状況になっても困難を乗り越える精神的エネルギーが湧き「次」の一手が生まれるのです。立ち止まってしまっただけで消滅するか、乗り越える「一手」を打って「次」へ進むか否かの差は非常に大きいのです。

その為には、「思考」では動けないので「想う」つまりイメージする事が大切です。しかし、何かをするしても、くよくよと思案する方がいらっしや、往々にして何も手をつけずに終わるパターンを繰り返しているのです。この状態の方が大多数なのです。右掲はイノベータ理論の分布図ですが、前項の「イケる」と直感する方は 2σ 以上のイノベータ層で2.5%つまり百人に3人いるのです。故船井先生は、この「イケる」と反応して行動を起こしてに最終的に成功する方は、さらに2.5%つまり $2.5^2 \approx 0.06\%$ で千人に1人も届かない確率だ教えて下さいました。この千人に1人になるには「演繹法」では難しく「成功する姿」をシッカリと描いて目的意識を持って、今、出来る事に着手して一歩ずつ成功を積み重ねる事がポイントなのです。



3. 百歳から見た「今」

では、実際に「未来から逆算する」事がポイントになります。経営的には「理念」を確立して「ビジョン」を描き、それに到達する為の「中期計画」を描きPDCAサイクルを回すとありますが、個人の場合、年齢がありますので比較的容易に「未来」を描けます。「〇〇年後の自分」なのです。この時に、どんな風でありたいかをイメージするのです。個人的ですが、私の場合、「百歳現役」という言葉で百歳になっても仕事しているイメージをしています。具体的には、QOL(生活の質)向上が大切なので、「運動」x「食事」x「社会」⇒「健康」とシンプルな構図で心身のフレイル対策に着手しています。「運動」は「街ジム」と言いますが、自宅と事務所の往復でウォーキングするようにして1日6キロ(約1時間)を合計で歩くようにしています。「食事」は自炊で栄養バランスを考え、「社会」は仕事以外にも地域社会に入り込み交流の機会を増やしております。

私は、72才なので百歳まで28年もあります。今から28年前を振り返ると44才で、トヨタ系販売店から系列のIBM特約店に移っており、そこで営業をしながら船井総研の客員経営コンサルタント養成学校に自費で通っていました。何故なら、系列の会社で成功するイメージがなく、前職で学んだ「トヨタ方式の」改善の夢が強く、力相応にコンサルタントとして道を切り拓く為に「流通業」を選んだのです。そして、資格を得て26年前に起業して、今日に至っています。

72才の「今」は、4年後(2025年)に事業承継すると決めて、事務所もレイアウト変更し、タイミング良く山口さんが社内で仕事するようになり、次世代の事業に向けてお客様をモデルに商品づくりを始めており9年遅れながら右上の経営革新計画に踏み出しています。山口さんとはトヨタ系販売店時代に戻って、「貢献が目に見える」をキーワードに「着想大局、着手小局」で進めています。右下は、新HPにある画像ですが、三男がスペースシャトルになって、私はマーケティング、山口さんはシステム開発でブースターの役目を果たす事を夢見しています。



4. 未来から逆算する

「計画」の通りに進まないで計画をしないという方もいらっしゃいますが、自分の理念や信念に基づいて未来の「想い」を描く事が大切です。9年前に経営革新計画を立てましたが途中で中断して、やっと、9年遅れで着手する事が出来ました。環境が整う事がキーですが、やっと、その状況に近づいて来たのです。私は、サミュエル・ウルマンの詩「青春」から「若さ」=「信念」x「実績」x「希望」と公式化していますが、「希望」を持ち続ける事の重要性を実感しました。「着眼大局、着手小局」と言いますが、ホントに「小局」と心がけても環境が整うまで時間がかかりました。

現実的には「今」の連続で一步ずつ演繹的に進めて、ある日、突然の如くチャンスが現れて変化していく「創発進化」という現実があります。故船井先生は「つきの神様に後ろ髪がない」とおっしゃって「つき」が来た時に動ける環境にしておく事を教えて下さいました。演繹的な現実がありますが、「未来から逆算する」事も大切です。毎日の連続の中でチャンスが到来するのですが、そのチャンスを掴むか否かの判断がポイントです。その基準は「未来」につながるか否かです。自分が求める「未来」(夢)が重要です。「自分らしさ」と言いますが、未来の自分に繋がる必要があるのです。私の場合、「百歳現役」という言葉です。既に妻が先立ち、子供たちも成人しているのです。余生と言っても一人ではつまらないと思います。健康の為にも毎日のリズムに仕事がかかせません。百歳になっても人の役に立てるように心身共に維持する事が重要です。このように、「未来から逆算する」すると「運動」x「食事」x「社会」⇒「健康」の図式が必須であり、自分なりに確立して実践していきたいと思っています。とりあえず、2025年に事業承継が大きな課題、これに向かって自分の役割を果たして行きたいと思っています。